since 1960
三条金物卸商協同組合
―三条金物倶楽部―　ニュース速報
みんなで築こう三条の輪　そしてはばたけ金物卸

『「リテールテックジャパン 2015」とセミナー「GS1QR コードを利用したリコール対策」』

東京ビッグサイトで、3 月 3 日（火）～6 日（金）の 4 日間に渡り、「リテールテックジャパン 2015」が開催されました。これは、流通にかかわるシステムや周辺機器等の総合展示会で、同時開催展として「建築・建材展」や「JAPAN　SHOP」なども開催されていました。

この「リテールテックジャパン 2015」において、3 月 5 日（木）に「GS1QR コードを利用したリコール対策」というセミナーが開催されており、そのセミナーを受講しました。なお、2 月 26 日（木）に開催された「JTDNA 製品安全（PL）セミナー」とも関連した内容となっており、講師は JTDNA 理事長の渡辺吉明氏でした。

製品安全に対する取り組みとしてリコール問題から始まりました。リコールは 100％回収まで完了する事ができません。例えば、リコール対象となった加湿器が、回収を呼び掛けても回収率が 60％程度しか戻って来ないとします。その後、未回収だった加湿器から火事が発生した場合も、責任を問われる恐れがあるということです。なお、製品に寿命がある場合は、それを正しくユーザーに伝えなくてはならず、怠ると民事責任とは別に長期にわたる責任が生じます。

この回収率をどのようにすれば上げられるかがポイントです。何らかの方法でユーザーのトレーサビリティ(追跡)ができるならば、回収率は上がるものと思われます。ただし現状は、ごく一部でしかトレーサビリティは使えないと思われます。そこでご紹介したい手段が、「GS1QR コードを利用したリコール対策」です。

「GS1QR コード」とは、「GTIN」と呼ばれる世界共通の商品コードに URL アドレスを加えた、モバイル用の 2 次元シンボルです。「GTIN」で国・企業・商品を特定し、モバイルアプリの利用や URL にアクセスすることでこの商品の様々な情報を得ることができます。この情報の中に取扱説明書を入れ込めば、紙の取説がなくなった際にもすぐに取得できるので便利です。もちろん、リコール対象になった場合も「GS1QR コード」を通してつかむことができます。

実際には購入者だけが使うのではなく、プレゼントなど購入者とユーザーが必ずしも一致しない場合は起こりえます。また、リサイクルショップ等の中古市場の存在もあり、単純なトレーサビリティでは難しくなるでしょう。その点からも、ユーザーから情報が簡単に取得できるシステムとして、「GS1QR コード」は大変有効だと思われます。今後、取扱説明書にこの「GS1QR コード」を使用したものが主流になっていくかもしれません。

セミナー終了後は、いくつか展示会を視察しました。特に印象に残ったのは「建築・建材展」で、いろいろな素材があり、とても興味深かったです。(H.Y.)